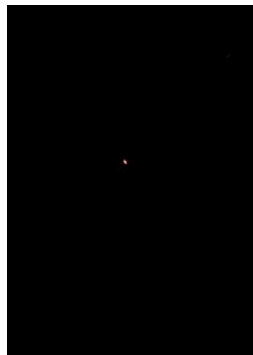




一日の仕事を終えて、駐車場へと向かう途中に見上げた“お月さま”——
美しく神秘的な光の奥に、何かをそっと語りかけてくるような、安らぎとあたたかさを感じました^^

その日は、“皆既月食”と“天王星食”が同時に起こる、貴重な巡りの晩ということで
自宅に帰って8時30分頃、携帯で撮影した何枚かの写真の中の一枚が、コチラです
地球の影となった月(日月地の直列状態)は、豆粒ほどにしか見えず、拡大フォーカスしてみました！^^



なんだか宇宙の果てから飛来する火球(日玉)^{ひだま}?! ”のよう、不思議な色と形です

国立天文台のサイトに、下記解説がありました



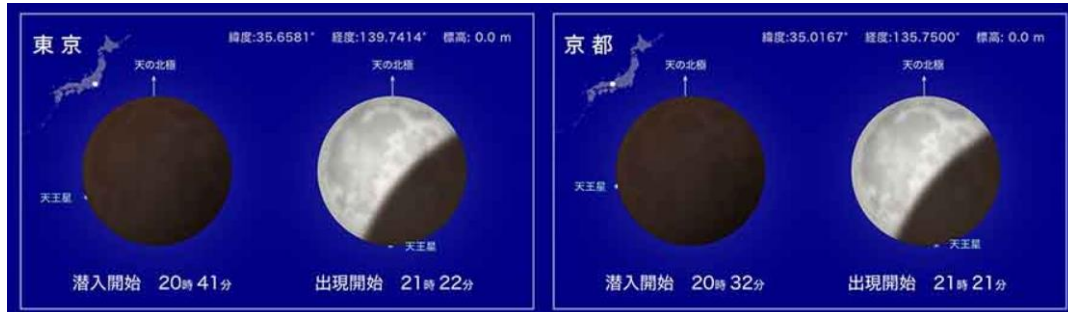
本影(真ん中の黒い円の部分)に突入した月の動き(動画)が、1枚の写真(静止画)となった感じでしょうか？

残念ながら、自身が撮ることができなかつた天王星食については、下図のように観測されるとの事

天王星はまるで、月に一時お邪魔する(出入りする)小さな惑星という感じですが

実際には、半径が地球の約4倍あり、逆に月は地球の4分の1程しかないようです^^

赤銅色の月の陰に隠れる青い惑星(天王星)



地球の影にすっぽり入ってしまった月が赤く見えるのは、太陽から放射される(七色の)光の中で

赤が最も波長が長く、大気中で散乱することなく月まで届きやすい為との事

私達の肉眼で捉えられる世界は、宇宙の動きの、極限られた小さな一側面でしかないことを実感します

下記は以前、自室の窓から撮った“動く月？”の写真です

“衛星”というよりも、“UFO”や“宇宙ステーション”という表現の方が、自身にはシックリきます^^



月は、地球から遠く離れた場所に存在する、未知の天体のイメージですが

時に、とても身近に感じることもあります

少しジャンプすれば飛び乗れてしまいそう？な程、すぐそこに、大きく見える気がしたり

写真に撮ろうとして携帯レンズを覗き込むと、鼓動を感じる…というか

何故か、形が大きくなったり小さくなったりして

まるで、自己の心臓と連動しているのでは？と思う時があります

心臓、肺臓などの臓器は、「月の蔵」と書くように、人体と月は密接なつながりがあるのではないのでしょうか？

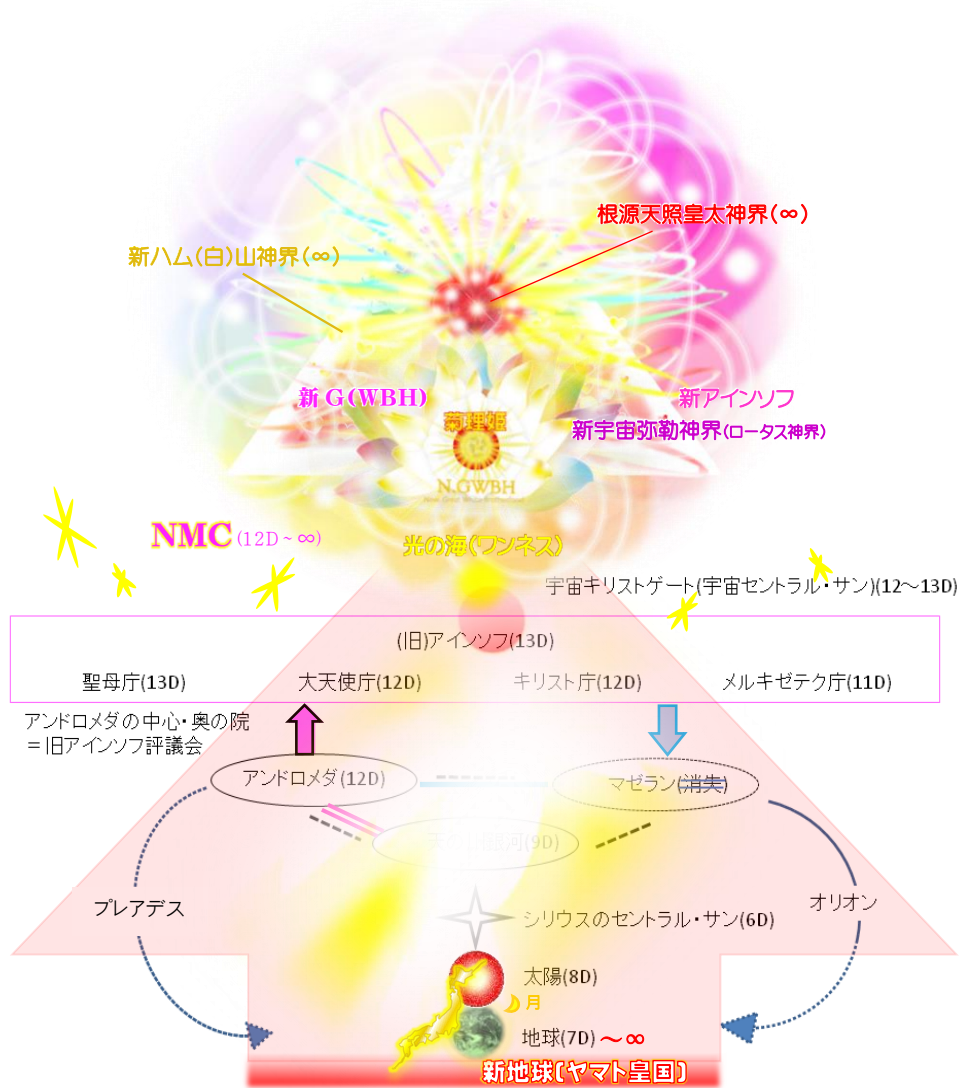
天文学的にも、地球の気候の調節装置のような働きを持つとされ

地上の生物にとって重要な役割を担う、大切なパートナーであるような気がします^^

数年前、父が運転する車の助手席で、夜空に、とても大きくて丸い、美しいオレンジ色の物体を見ました

常識では、“月”としか言いようがありませんが、常識では、あり得ません(笑)

兎の餅つき?! (自身の中では、目出度いお正月のイメージ^^)
 何か神聖な祝いの行事が催されているかのような賑わい、喜びの波動を感じて
 ワクワクした事を思い出しました^^
 偉大なる生命の母 = “太陽”と、その回りをまわる私達の“地球”
 そして、地球を護るように寄り添う“月”
 素敵な“三位一体”が見えてきました! 自己の宇宙MAPにも、描かれています^^



“日月地”の三位一体から連想されるのは
 伊邪那岐・伊邪那美神の間に生まれた“三貴子(神)”
 日の神 = “天照大御神”、月の神 = “月読命”、海原の神 = “須佐之男命(素戔鳴尊)”です^^
 日本神界が降ろされたのは、銀河の光の源とされる“オリオンの三ツ星”であり
 それは、三貴子(神)の象徴でもあります
 オリオンは、“オリオン戦争”という言葉のせい、力を主とした男性性のイメージですが
 女性性の側面で見ると、アインソフ(聖母庁)や弥勒神界にもつながる、愛と神聖の領域でもあり
 神社でよくみられる巴紋は、オリオンの三ツ星 = 三貴子(神)を表したものとされます
 三つ巴(三つの側面)が統合された形が、日本の国旗である“日の丸”の●

日月地の三位が、太陽を中心として一つになった国が、日本なのではないでしょうか？

宇宙とつながる、強大なパワースポットであり

元伊勢とよばれる“籠神社(奥宮:真名井神社)”(京都府北部、天橋立)のホームページを開くとクルクル回転する、“赤い巴紋”が目飛び込んで来て、な～るほど！です^^



“日月地”、“三貴子(神)”、“三種の神器”等、三位一体の∞の連なりを感じますがその源として見えてくるのが、天地開闢の三位一体神とされる

“造化三神”＝“天之御中主大神”、“高御産巢日神”、“神産巢日神”です

宇宙創造主神と言われるのが、“天之御中主大神”(ヤーヴェやエホバ、ブラフマン等とも)であり銀河系レベルでは“天之常立大神”、太陽系では“天照大神”、地球では“国常立大神”と呼ばれますあつ？“太陽系、天照大神”と書いて、違和感を覚えてしまったのですが、私だけでしょうか？

自身の中で、この部分が抜け落ちていたような…？ その理由として今思うことはこれまでの宇宙史は、意識の進化における下降のルート＝“ディセンション・ルート”がメインであり上昇進化の道である、太陽(魂)の道＝“アセンション・ルート”は奥に隠されていた…では？

晴れて今、“天照大神”は、本来の“天照皇太神”となり

宇宙の根源太陽(根源天照皇太神)へと向かう“太陽の道”(セントラル・サン・システム)＝“根源へのアセンション・ルート”が明確に現れ出た！！

ということではないでしょうか！^^

ディセンションとアセンション、分離と統合は、陰陽・裏表の働きであり

意識の進化には両面が必要です

いよいよ後者(アセンション)の時がやってきた！！です！^^

御神名とは、神の働きを表すものでもあります

他の二神について、アセンションの学びの中で理解されてきたのが

創造主神(天之御中主大神)と、私達を“結ぶ”(産巢日ムスビ)働き＝統合の働きであり“神御産巢日神”は、神の全き分御魂(神そのもの)である私達の“魂”と、“神”とが、直につながる事“高御産巢日神”は、神と私達の間にあるスピリット(霊、高次)を通して、神とつながる事ですキリスト教に、“父と子と精霊”の三位一体がありますが

父＝神(界)、子＝人、精霊＝天界(高次の存在)と置き換えると、わかりやすい感じがします父と子＝神と人とが、神の分身である自己の“魂”から直接つながる事を、“神御産カミムスビ”、一方父と子の間に、神の意志やエネルギーとも言い換えることのできる、スピリット(霊)＝天界が入る事によって間接的につながる事を、“高御産タカミムスビ”というのではないのでしょうか？

“神御産”は日本の“神道”のイメージ、“自己(の魂)”＝“神”であると気づく事(覚醒)、神化の道

神とは、大自然(大宇宙)そのものであり

全体と中心(マルとテン、全体と個)、はじめと終わり、等の抽象的な概念しかなく
教義(マニュアル)がない、感覚(直感)、感性重視の、とても高度な学びであるような気がします

それに対して“高御産”は、西洋の“アセンション学”のイメージ

高次(スピリット)との一体化、サポートによって、論理的、体系的に学ぶことができ

『神智学』は、その素晴らしいマニュアルの一つと感ずりますが

アセンションの究極の目標である神化ではなく、進化を中心としたものである気がします^^

私達は何度も国や人種を変え、転生を繰り返しながら、その両方を学んできたのではないのでしょうか？

両者が統合された力をもつ新人類が、“神人類”であり、自身の目指す“皇道(皇学)”です^^

日本の天皇家が代々継承するとされるのが、“三種の神器”です

自身の中でのイメージとしては、“八咫鏡”は日 = 天照大神の象徴であり

“八咫瓊勾玉”は月 = 月読命の、“天叢雲劍(草薙劍)”は地 = 須佐之男命の象徴という感じですが

天皇が実物を所持するのは八咫瓊勾玉のみで、あとの二つは形代(レプリカ)とされ

八咫鏡の実物は伊勢内宮に、天叢雲劍(草薙劍)の実物は熱田神宮に祀られているのだそうです

神社や神器等は、人の思惑による様々な経緯があっても、神(界)の計画の元に、あるべき所にあるのであり

三種の神器がこのように分けられているのも、何らかの意義、働きがあるからではないのでしょうか？

皇室と“月”の関係について、以前驚きの発見があったのですが

それをもっと身近に、よりリアルにしたのが、今回の皆既月食&天王星食であったような気がします

(天王星 = “天皇星”と浮かびました^^)

その日の月から感じたのは、大きくて深い“愛”のエネルギー？！

どちらかというと、横文字の♡LOVE♡ = “ハート” = “天界の愛のエネルギー”という感じで

月に向かってピースしてみたりして(笑)、愛を全力で贈りたい！ハートでお月さまを包みたい！などの

フレンドリーな気持ちが湧いてきて、自分でもちょっと不思議でした

翌日、ネットで目に止まったのは、リラ星から人類へと贈られた愛のメッセージです！^^

私達のまわりには今、沢山の銀河の仲間が応援にかけつけてくれていて

リラン(ライラン)もその中の一つであり

銀河で最も古い、愛と叡知に溢れた、人型生命体の祖と言われる存在のようです

地球外に仲間がいて、応援してくれている！なんて、もう想像しただけで、嬉しくて仕方ありません^^

そして、三日後にやってくるのは、“新しいはじまりの時”を予感する、“11月11日”

「リラにはじまり、テラ(地球)に終わる——」の言葉が浮かんできました！

自身の地球でのA P (ミッション！)『根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN』内に

2020年になって新しく開設した《ユニバースのコーナー》があるのですが

その第一弾コンテンツ

『根源の皇の星地球へようこそ！』で取り上げた言葉です^^

<http://ascension-hokuriku.net/2020-8-universe/2020.8.15.pdf>

※ちなみに、ユニバースのコーナー(たいそうな…ですが、笑)は、

「地球はもう、地球人だけのものではない！」との思いが強くなって、作ってしまったコーナーです^^)

私達の住む“地球(テラ)”を“中今の核”とした
この“多次元同時存在宇宙”における、あらゆる全ての願いが
「リラにはじまり、テラに終わる」という言葉に、凝縮されているような気がしました

リラについては、それまで書籍やネットから得たわずかな知識しかなく
特別意識したこともありませんでしたが、今思うと、何らかのつながりを感じていたのだと思います
自身の名前(本名)が、ラ行はじまりであるという、些細なひっかけりであったりとか
過去に二度程、白山比咩神社にいた時に聞こえてきた(気がした)のが
何故か「魔法使いサリーちゃん」の歌で、たしかに小さな頃はよくTVで見っていた記憶がありますが
突然どうして?と気になり、ネット検索してみると、ヒットしたのが“リラ星人”でした
リラは、宇宙船の開発等、地球とは比べものにならない程進化した科学技術をもつ星でもあり
私達からみれば、まさに魔法使いです^^

**一見取るに足らない、微かな“つながりの糸”をたどっていくと
その先には、信じられないような、壮大な、不思議世界が広がっている——
アセンションの学びの楽しさ、醍醐味でもあります^^**

ネット社会は様々な弊害もありますが、日々拡大、進化するエネルギー(宇宙)空間でもあり
常に自己の中心“ハートと魂”で感じる思い=“愛のエネルギー”を軸とすることで
豊かでエキサイティングな世界が、∞に広がっていく感じがします
これまで教えられてきた歴史は、ほとんどが真実とは言えない…というか
その時の、誰かの都合で、創作されたものであった事が、だんだんわかるようになりました
ならば、自分達で新しい歴史を創ればいい！！
愛と平和、喜び、感動で一杯の世界を、一人一人が、みんなが、創っていけばいい！！！！
それが真実の宇宙であり、風の時代の生き方なのだと思います

リラ星は、ヤーヴェ(天之御中主大神)が、根源(神)の愛を学び、分かち合う場として創造した
銀河宇宙における、人型生命体のはじまりの地であったと言われます
「すべては一つである」という、ワンネスの精神が中心となった、愛と調和の世界であり
また、高度に進化した科学技術も共に持つ
知性・靈性豊かな、理想の文明世界であったと言われます
けれど、究極の発展を遂げるなかで、いつしか精神と科学のバランスを崩してしまい
大爆発を起こし、リラ星は粉々に碎け散ってしまったのだそうです
その破片を拾い集めるようにして出来ていった(進化していった)のが、私達の銀河であるとされます
(どれほど悲しかったことか…、胸に迫るものがあります)

リラ星からはじまる、銀河における様々な星の栄枯盛衰、争いの陰が、レムリアやアトランティスの滅亡に重なり
宇宙で繰り返された歴史の全てが、この地球に映し出されている——、
そんな気がします

“月”に関する驚きの発見とは

『“月”は、ヤーヴェをリーダーとする12のリラ系種族144,000人を乗せた宇宙船であり、その子孫が“日本の天皇”である』です

リラが人型生命体のはじまりの地であるということは、地上の人類だけではなく銀河に存在する他の全ての人型生命体の祖(親)でもあるということです
そのリラ系種族が、“月”という宇宙船をつかって、地球の周囲をまわっていた。。。。

ヤーヴェ(天之御中主)の子孫である、天皇を見守るように——

太古、日本の天皇は、“世界天皇”であり、皇子らが天空浮船(宇宙船)に乗って世界各国へと渡り五色人(人類の雛形)の教導にあたっていたとされることを、信じていた地上セルフにはとても腑に落ちるものであり、今まで隅っこで小さく固まっていた？地球が宇宙へと弾け飛んだ?!(大宇宙の仲間入りを果たした)かのような、大きな開放感と喜びを覚えます！
地上で行き交う“12種族”や“144000”という謎のキーワードの意味も、ここにあったのか！という感じ^^

12種族と言えば日ユ同祖論が浮かびますが、どっちがどっち？ではなくすべてが日本からはじまり、いつかまた、故郷日本でいっしょになる…、ということでバラバラになってしまったイスラエルの12部族に、レビ族(ヤーヴェ・ファミリー)を加えた13の種族がヤーヴェの子孫である“日本の天皇”の元で、再び一つとなることが

日本とユダヤ＝地上世界の統合であり、そして

“テラ(地球)”と“リラ(全銀河)”の統合でもあるのではないのでしょうか？

ユダヤの祖アブラハムを更に遡ると、世界最古の文明とされるメソポタミア文明へと続き

“シュメール王朝”が浮かび上がってきます

“天皇”と書いて、“スメラミコト”とも呼びますが、シュメールはスメル、スメラに似ています^^

『正統竹内文書』によると、シュメール王朝の最大都市である“スサ”の王が、“スサノオ”であり

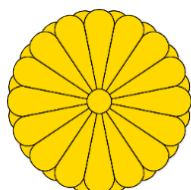
政治や軍事を担当するグループであった、それが日本の“出雲族”

一方、祭司を担当するグループが、スメラミコト(シュメール＝スメル)の命と呼ばれ

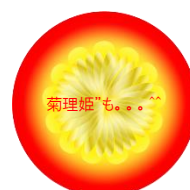
日本の“大和族”につながるグループとの事です^^

ここにも、“はじまりと終わり”である日本の姿が、見えるのではないのでしょうか？

シュメールやユダヤの遺跡には、日本の“菊花紋”に似た模様が刻まれている事も、納得ですね^^



日本から世界へと派遣された、15皇子・1皇女の象徴とされる
天皇家の印“16菊花紋”



菊理姫”も。。。^^

地球人の意識が拡大・進化することで、「リラにはじまり、テラに終わる」が

「地球にはじまり、地球に終わる」となり

「根源(＝地球)にはじまり、根源(＝地球)に終わる」へとシフトしていくのではないのでしょうか！^^

“根源”を目指すことは、リラよりもっと以前の、より大きな領域との統合を目指す事でもあり

地上セルフは、その果てしなさに気が遠くなりそう。。。ですが(笑)

今浮かんでいるのは、アインシュタインの言葉とされる、このメッセージ

「世界の未来は進むだけ進み、その間に幾度か争いは繰り返されて、
最後の戦いに疲れる時が来る。」

そのとき人類は真の平和を求めて、世界の盟主をあげねばならない。

この世界の盟主なるものは、武力や金力でなく、あらゆる国の歴史を抜き越えた、
もっとも古く、もっとも尊い家柄でなくてはならぬ。世界の文化はアジアに始まってアジアに帰る。

それはアジアの高峰、日本に立ち戻らねばならない。

皇の星“地球”

われわれは神に感謝する。

われわれに日本という尊い国をつくっておいてくれたことを」

なんと胸躍るメッセージでしょう！！

ネットで調べてみると、彼のアインシュタインの言葉ではないとする意見があり、えっ？となりましたが
宇宙で微笑む、アインシュタインの姿が見える気がします^^

このような尊い使命を持つ日本に生きている事に感謝し、希望と勇気をもって進みます！！

皆既月食と天王星(天皇星)食が同時に起きたのは、**日本 GOー！！！！**の合図では？！

私達の銀河のはじまりである“リラの種族”が

長い間、私達の日覚めの時を待っていてくれた。。

月は時に厳しく、時にあたたかく、私達のことを、ずっとずっと見守ってくれていた——

あの日の月に感じたのは、「ここにいるよ」と手を振る、懐かしい笑顔…

遙かなる銀河の家族との、再会の喜び…

私達はここ地球から、すべてを統合した“神(天)人”、根源の“皇人”として
銀河のたくさんの仲間と共に、ワンネスの宇宙を創造していきます！

NMCAA と出会い、宇宙に意識を向け始めたのが 2011 年

もう引き返せない地球のアセンションを知り、旧宇宙期の終了を知ったのが 2012 年

そして、2013 年 “新宇宙開闢”？！

その頃は、ハイアーセルフ(&ネットワーク)主導で、何もかも？だらけの地上セルフでしたが

十年後の今は違います^^

2023 年は、地上セルフが全面参加の、新宇宙開闢年！

一人一人が、天之御中主であり、宇宙創造主！！ **やったー！！！！**

2022. 11. 11 皇美・流美